

## グループワーク② 「創意の活動をはぐくむ」行政との連携充実」

### ① 小さな創意を掘り起こすにはどうしたらよいでしょうか？

#### ○創意の掘り起こし方、引き出す工夫

- ・活動している団体や活動を考えている団体の企画をコミュニティ会議とマッチングさせる仕組みをHPで周知する。
- ・親子参加型が良い。(料理教室、学習支援)、世代間交流も。
- ・他地域での好事例を紹介する。
- ・逆に地域外の人が入って、活動に参加しやすい面もある。
- ・活動する気がある人はいるので、ニーズを知り得る場があれば良い。
- ・地域で実際に活躍している方々はいるので、その人から知識や技術などを提供していただく仕組みを作る。ワークショップ等を定期的で開催し定着させることで、この場所を認知し、学びたい、やってみたいという人が出てくる。プレゼンターを紹介していただいたり情報提供していただき、年1回ではなく定期的な開催が大事。
- ・小さいコミュニティ、場が必要であるので、公民館の活用が必要。公民館単位で学童クラブ等のコミュニティがあればよい。
- ・若い父母、女性を対象にワークショップを開催する。自らやりたいこと、やってほしいことをアイデアとして出していただく。
- ・(事例紹介) 各世代が集まるコミュニティ祭りを開催している。野菜の品評会、もち振舞いを行っている。祭り、スポーツなど集まりやすい取り組みが必要。
- ・(事例紹介) コミュニティ会議で若者による地域づくり実行委員会を開催している。自分たちで企画、実施している。スポーツ大会が中心で子供が参加している。昔遊びや小中学生を対象に神楽の伝承をしている。石鳥谷では中学生の発案で、祭りの際に歩行者天国で福男選びをしているとのこと。
- ・(現状) 民生児童委員が毎日小中学生の見守りをしているが、活動が広まらない。活動を広げるのは難しい。
- ・(現状) 棚田マラソンを始める時、予算とボランティアスタッフの確保がハードルだった。
- ・(事例紹介) マラソンは申込制にして実施するので、事業規模が予め分かり予算オーバーにならないところが利点
- ・共通の好きなことを持っている人が数人集まって、先ずは気軽な飲み会から始める。何をしますよと人を集めるのではなく、親睦を深めながら未来を語る中で次第にやりたいことを引き出す。
- ・ワークショップをする場合でも、ワークショップという言葉は使わない方がよい。
- ・地域に関心を持つことが必要。例えば円卓会議のような、地域課題や地域で行われている楽しい活動などを共有する場があればよい。先ずは何かやってみないと始まらない。
- ・コミュニティ会議が何をするとところか知られていない。コミュニティ会議に相談できるということをしっかりPRし、コミュニティ会議との接点を持たせることが必要。
- ・行政、コミュニティ会議、行政区、自治会それぞれの役割を行政が整理する必要がある。役割が不明瞭だと責任がなくなる。事業によって地域づくり交付金を充ててよいのか、自治会費で賄うべきなのか明確にしてほしい。
- ・自治公民館単位ならお互いの顔がわかっているのでアイデアも出やすい。自治公民館に市が補助するしくみがよいのではないか。
- ・当地区では、草刈りについて コミュニティ会議から自治公民館への補助があるが、楽しい行事のようなものには補助がない。小さい単位での創意の活動に地域づくり交付金を使ってよいとは思われていない。地域の運動会などソフト事業にも使ってよいのではないか。
- ・小さな創意活動に交付金を使うことについて、地域の合意が得られにくい。
- ・女性がキーマン。女性が出てこないと活性化しない。

#### ○人的支援(中間支援組織等のサポートのあり方)

- ・専門的に活動している団体が活動支援を行う。
- ・参加者自身が手伝う活動も。
- ・相談できる場所(行政や中間支援団体など)があるということをきちんと周知することが必要。
- ・地域づくり課や支所で相談を受けてほしい。市に相談できることを積極的に周知する必要がある。

## グループワーク②「創意の活動をはぐくむ」行政との連携充実」

② 事業構築において、どのような支援があれば事業展開しやすくなるでしょうか？

### ○具体的な事業内容

#### 金銭的支援（補助金交付）

- ・少額で事業可能なので、地域づくり交付金の活用が良い。  
（市補助金はせいぜい1/3程度の補助で活用しにくい。提出する資料が大変）

### ○補助対象者

- ・最低構成人員2人からが良い（少人数でも可能なように）

### ○対象者

- ・地域に限定せず地域を越えたものでも可

### ○補助対象とする事業

- ・気軽に取り組める事業から対象とする。
- ・若い人たちへの子育て支援ができないか。じっくり考える時間や相談しあえる場が必要。
- ・若い女性が少ないので、趣味の会への支援があればよい。例えば女子会など。
- ・コミュニティ交付金について、ソフト事業への利用が困難になっているため、大迫では返納した事例がある。
- ・皆さんから事業要望を引き出しているところである。

### ○補助交付額（交付金の活用）

- ・地域づくり交付金の活用で、100%補助。

### ○その他

#### 「地域企画プレゼン大会」（定期的に継続的に開催）

- ・企画を持っている人と開催側のマッチングを目的とする。
- ・企画内容や予算（おおまかな）など項目を定めた用紙に記入し発表する。  
→良いと思った団体に記名で投票（良い企画には票が集まる）
- ・その資料を持ち帰ってコミュニティで話し合い決定→依頼→実行（地元の住民と交流の工夫）